

# 決 算 報 告 書

## 第 8 期

自 平成30年11月 1日

至 令和元年10月31日

温泉の素.com株式会社

長野県飯田市中村1758-2

# 貸借対照表

[税込] (単位:円)

令和元年10月31日 現在

温泉の素.com株式会社

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
<b>【流動資産】</b>		<b>【流動負債】</b>	
(現金・預金)		買掛金	2,804,018
現金	172,507	未払金	621,657
小口現金	196,589	未払法人税等	182,500
J Aバンク	3,662,220	未払消費税	4,163,000
ジャパンネット銀行	10,042,178	流動負債計	7,771,175
けんしん	1,613,348	<b>【固定負債】</b>	
八十二銀行	4,555,937	長期借入金(けんしん)	2,146,000
定期預金(J A)	1,000,755	長期借入金(八十二)	41,100,000
定期積金(八十二)	5,479,602	長期借入金(日本政策)	2,750,000
現金・預金計	26,723,136	長期借入金(鈴木健太郎)	7,291,400
(売上債権)		固定負債計	53,287,400
受取手形	412,000	<b>負債の部合計</b>	<b>61,058,575</b>
売掛金	11,310,212	<b>純資産の部</b>	
売上債権計	11,722,212	<b>【株主資本】</b>	
(棚卸資産)		資本金	20,000,000
商品	10,683,911	(利益剰余金)	
棚卸資産計	10,683,911	[その他利益剰余金]	
(その他流動資産)		繰越利益剰余金	△896,529
未収入金	110,715	利益剰余金計	△896,529
その他流動資産計	110,715	株主資本計	19,103,471
流動資産合計	49,239,974	<b>純資産の部合計</b>	<b>19,103,471</b>
<b>【固定資産】</b>			
(有形固定資産)			
建物	5,834,316		
機械及び装置	19,499,578		
車両運搬具	897,762		
工具器具備品	2,522,758		
有形固定資産計	28,754,414		
(無形固定資産)			
ソフトウェア	1,299,918		
無形固定資産計	1,299,918		
(投資その他の資産)			
敷金	340,500		
長期貸付金	500,000		
保険積立金	27,240		
投資その他の資産計	867,740		
固定資産合計	30,922,072		
<b>資産の部合計</b>	<b>80,162,046</b>	<b>負債・純資産の部合計</b>	<b>80,162,046</b>

# 損 益 計 算 書

[税込] (単位:円)

温泉の素.com株式会社

自 平成30年11月 1日 至 令和元年10月31日

<b>【売上高】</b>		
温泉の素売上高	147,872,522	
化粧品売上高	4,758,258	
売上値引高	△17	
売上高 計		152,630,763
<b>【売上原価】</b>		
期首商品棚卸高	8,793,719	
期首商品・製品棚卸高	8,793,719	
温泉の素仕入高	39,434,887	
化粧品仕入高	604,810	
外注費	299,535	
仕入値引高	△152,053	
当期商品仕入高	40,187,179	
合 計	48,980,898	
期末商品棚卸高	△10,683,911	
期末商品・製品棚卸高	△10,683,911	
売上原価 計		38,296,987
売上総利益		114,333,776
<b>【販売費一般管理費】</b>		
(人件費)		
人件費 計	60,527,473	
(その他経費)		
その他経費 計	48,151,102	
販売費・一般管理費計	108,678,575	
営業利益		5,655,201
<b>【営業外収益】</b>		
受取 利息	531	
受取配当金	10	
売電 収入	1,379,977	
雑 収 入	51,722	
営業外収益 計	1,432,240	
<b>【営業外費用】</b>		
支払 利息	396,815	
営業外費用 計	396,815	
経常利益		6,690,626
<b>【特別利益】</b>		
特別利益 計	0	
<b>【特別損失】</b>		
固定資産売却損	14,759	
特別損失 計	14,759	
税引前当期純利益(損失)		6,675,867
法人税、住民税及び事業税		182,500
当期純利益 (損失)		6,493,367

# 販売費及び一般管理費内訳書

[税込] (単位：円)

温泉の素.com株式会社

自 平成30年11月 1日 至 令和元年10月31日

(人件費)	
給料 手当	46,612,597
役員 報酬	5,910,000
雑 給	16,100
法定福利費	4,040,767
福利厚生費	3,948,009
人件費 計	60,527,473
(その他経費)	
通 信 費	503,857
荷造 運賃	3,273,828
水道光熱費	463,088
旅費交通費	5,485,143
広告宣伝費	1,747,184
接待交際費	334,766
事務用消耗品費	1,081,536
備品消耗品費	5,680,187
研究開発費	48,574
新聞図書費	122,864
研 修 費	382,075
修 繕 費	1,500,041
地代 家賃	8,245,974
車両燃料費	425,005
保 險 料	3,968,792
租税 公課	1,153,474
諸 会 費	97,000
支払手数料	978,627
減価償却費	12,555,179
管 理 諸 費	57,513
雑 費	46,395
その他経費 計	48,151,102
販売費・一般管理費計	108,678,575

各従業員  
お取引先の皆様へ

令和 1 年 10 月（第 8 期）決算のご報告

温泉の素.com 株式会社  
代表取締役 鈴木健太郎

平素は、格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。  
別紙の通り、第 8 期の決算がまとまりましたのでご報告申し上げます。

<はじめに・・・当期の主な動き>

■はじめての展示会にチャレンジした

毎年 2 月に国際ホテルレストランショーに出展してきた。

今期は、4 月に、「まるごとにつぼん（浅草）」、6 月に「九州観光ホテル外食産業展（博多）」、9 月に「ギフトショー（東京）」に出展した。広告宣伝費、旅費、展示什器備品など費用が生じたが、まずまずの成果が現れている。今後が続くだろう。

■抽出濃縮用のエバポレーター取得

ご当地の花、葉、根などからエキスを抽出し、濃縮するためにエバポレーターを取得した。これにより「温泉地の温泉の素」一本で営業展開してきたが、「ご当地の農産物や果実を使用した温泉の素の開発」が可能となった。

■断裁機の取得

ラベル印刷を A3 サイズにしたので、断裁機を用い A4 サイズに 1 発断裁し使用している。また、今までカッターナイフで POP やプライスカードを断裁してきたが、断裁機取得により効率化を図った。

■大混合機の取得

これまで、25g 換算で「1000 個程度の混合機 2 台」で混合してきた。10,000 個まで 1 度で混合できる混合機を取得した。これにより、2000 個～5000 個までの混合工程が省力化できた。同時に、手作りではあるが混合室として囲いをし、製造面積を増床した。

■プラットフォーム整備（出荷場整備）

雨が吹き込むプラットフォームであったが、屋根下に囲いを付けた。5S の一環であり、雨天時でも対応できるようにしたうえで、出荷場に置き場を定めた。

■アロマセラピー検定 1 級およびアロマセラピーアドバイザー資格取得。

意欲ある者に立候補いただき、アロマセラピー検定 1 級およびアドバイザー資格の取得をした。地元の外部講師にご協力いただき 5 名が取得できた。

■抗菌美装術の 20 周年記念行事に参加

前身である抗菌美装術が 20 周年を迎え、名古屋で食事会、劇団四季の観覧を従業員全体で行い祝った。

## ■損益計算書

【売上】売上 15,263 万円（対前年+1,618 万円=111.9%）

内訳：温泉の素 対前年+1,593 万円、化粧品 対前年+24 万円、売上げ値引き-1 万円

昨年度は、新規顧客営業を 6 ヶ月間受け付けなかった影響により売上高が減少したが、今期は生産体制を整ったことで営業に専念でき、予定通り売上げ増に転じた。また、新たな試みとして、アニメ関連の温泉の素に挑戦したことで手応えを感じている。

当社は営業の主力を温泉施設としているが、消費税増税後の影響を配慮し、温泉施設以外の顧客開拓に力を入れはじめた。

化粧品事業については、一昨年手ごたえを感じ、徐々に既存温泉の素取扱い施設に PR してきたが、その効果は今年見られなくなり横ばいとなった。温泉水入り化粧品への営業努力を続ければ伸びていくだろうが、消費税増税後の温泉施設の観光客減を考えると、その他の分野へ力を入れた方がよいと考えている。

【仕入】仕入 4,018 万円（対前年+15 万円=100.3%）

内訳：温泉の素 3,943 万円+外注費 29 万円 対前年+71 万円（101.8%）、化粧品対前年-56 万円（51.8%）

外注費は、人材不足により派遣さんを 1 ヶ月間入れたので増えた分である。フィルム印刷機導入により、一昨年はラベルやフィルムなどがダブルで在庫せざるを得なくなっていたが、今期はフィルムへの統一化が進むなかで昨年に比べ在庫が適正化していき仕入れが減少したものである。特に何かして仕入れ額が減少したわけではない。

【販売費及び一般管理費】10,867 万円（対前年+1,067 万円=110.9%）

内訳：10 万円以上の変動を見ると、広告宣伝費+93 万円、荷造運賃+47 万円、役員報酬+231 万円、給与+194 万円、雑給-16 万円、法定福利費+85 万円、福利厚生費+140 万円、減価償却費-429 万円、修繕費+81 万円、消耗品+188 万円、水道光熱費-10 万円、旅費交通費+192 万円、支払手数料+47 万円、租税公課+32 万円、保険料+203 万円、通信費-12 万円、燃料費-10 万円、分析研修費+26 万円、雑費-10 万円である。

博多市での展示会、ギフトショー出展により、広告宣伝費、消耗品（什器）、旅費交通費が増加。福利厚生費は、抗菌美装櫛20周年記念事業の負担金による伸び。修繕費は 5S での倉庫棚、消防点検、プラットフォームの整備、電話回線（ねずみ被害）。消耗品は、展示会什器、液体クロマトの備品、マッサージ機他、フード加工、乾燥機。支払手数料は、商標登録など。保険料は、倒産保険 99 万円、役員退職積立用の損金保険 100 万円、賠償保険+4 万円。分析研修費はアロマセラピー検定 5 名である。

【営業利益】+565 万円（対前年+562 万円）

営業外収益・・・太陽光発電 137 万円（-5 万円）

営業外費用・・・利息 39 万円（-7 万円） 他

【経常利益】+669 万円（対前年+513 万円）

## 【総論】

展示会出展や訪問営業に力をいれた結果、売上増を果たした。販管費の 1,067 万円の伸びのうち、政策的に役員報酬の増加や役員退職用保険料、展示会への出展、福利厚生の実などを加味すれば、今後に向けた投資であることが理解できる。昨年の減価償却費が 1,685 万円に対し、今年 1,255 万円。一昨年のフィルム印刷機他の設備投資。

## ■貸借対照表

【流動資産】4,923万円（対前年+631万円=114.7%）

内訳：現金2,672万円（+1,000万円）、受取手形41万円（-1万円）、売掛金1,131万円（-552万円）、商品原料1,068万円（+189万円）、未収入金11万円（-1万円）、関係会社勘定0万円（-3万円）である。

売掛金や受取手形は12月末時点ですべて現金化していて不良債権はない。

【固定資産】3,092万円（対前年-523万円=85.5%）

増減内訳：建物-38万円、機械装置-581万円、車両運搬-44万円、工具器具+83万円、ソフト+55万円。

※長期貸付金の50万円はここ5年同じ状態だが、不良債権化している。貸し倒れが起きれば、社長勘定借入金と相殺するか、利益が出ていれば貸し倒れ処理する。

【流動負債】777万円（対前年+219万円=139.4%）

増減内訳：買掛金-174万円、未払金+62万円、未払法人税+11万円、未払消費税+320万円。

【固定負債】5,328万円（対前年-761万円=87.5%）

内訳：長期借入金4,599万円（-61万円）（うち八十二銀行4,110万円、長野県信用組合214万円、日本政策金融公庫275万円である。）、役員長期借入729万円（-700万円）。

日本政策金融公庫とのお取引をはじめた。消費増税後の景気悪化時に、万一の時、借り入れできるようにとの政策的な借入である。（300万円5年）。長期役員借入金は、700万円減少したが、300万円は個人に返した。残り400万円は個人に返した後、抗菌美装欄に貸し付けている。

【株主資本】1,910万円（対前年+649万円）

## 【総論】

毎月の返済額は1年12月時点で、八十二銀行108万円、長野県信用組合12万円、日本政策金融公庫5万円=125万円である。

銀行借り入れは予定通り返済している。

## 【第9期の重点施策】

### ■売上面

#### <温泉の素分野>

消費増税後の観光客減少による売上げ減が予想される。観光客減は弊社ではどうしようもないので、無理に営業しても伸びない。入浴剤分野にある程度力を移す。観光客が回復したら次の展開を考える。

代理店のうち、ある1社との契約更新（3年更新）が4月末に迫っている。予てより、弊社ホームページ（温泉の素.com）への掲載を依頼してきたが、「代理店にとってメリットがない」という理由で180種類ほど手がけてきたうち3社程度しか掲載されていない。災害地の復興キャンペーンもお願いしてきたが結果があまり出ていない。一方、パートスタッフの人材確保が困難な状況下で、社内でも代理店からいろいろ言われて悲しいという意見が多く寄せられていた。弊社にとっても、その代理店と契約を続けるメリットが感じられないので、次の更新しないことを決めた。その会社への売上げは年間1,948万円ほどあるが、粗利益がほとんど取れていないので、経営に与える影響は粗利益で70万円程度である。したがって来年度は、大幅な売上げ減を予想している。消費税増税の影響次第だが、3,000万円ダウンの1億2000万円と予想している。

#### <入浴剤分野>

今期ギフトショーなどへの出展で手応えを感じていた。案件も上がってきているので見込み通り成長するだろう。商品自体は単発での製品化なので、商品自体のリピートは厳しい。版權業者や販促企画業者のリピートとして獲得していける手段を取る。そのために後述する設備投資を始めている。アニメ、アイドル業界も昨年に引き続き模索していく。手応えはある。

#### <化粧品の分野>

既存の温泉の素取引先を相手に少しずつ展開していく。

### ■設備投資

#### <温泉の素、入浴剤、共通>

第8期までは生産ラインのシステム化、省力化を行ってきた。第9期は、営業、試作指示、売上傳票作成、佐川急便伝票作成、製造指示などの事務部門のシステム化、省力化を図る。

ホームページで試作依頼や注文を受け付ける。その依頼情報を製造システムへ取り込み、佐川急便ソフト、売上管理ソフト、テレマソフトへと移行させる。

（既に①製造指示システムから生産管理システム、計量システムへの情報伝達、ならびに②売上管理ソフトから会計ソフトへの情報伝達はできている）

この設備投資により営業を含めた事務的な部門のシステム化ができる。令和2年2月頃を目処に順次稼働を始めるが、最初は事務員がお客様に成り変わって情報入力しながらプログラムの確認をしていくので、手数はむしろ増える。売上げ減の基調のなかで余力を将来の省力化につなげる。GW、お盆の繁忙期を乗り越えたあたりからお客様に入力してもらいようになり、1年後にはパートさんの手数以4名分減るであろう。

### ■25gの1回分もフィルム印刷に移行する

一昨年にフィルム印刷機を導入後、約2年かけて2ロット400個以上をフィルム印刷に移行してきた。（ラベル貼り人員の削減）。第9期は、1ロット200個もフィルム印刷で、できるようにしていく。器具乾燥機を増設し、手待ちのムダ、動作のムダを排除し、段取り替えにかかる時間を短縮していく。



■色のスキルアップ

温泉の素の中身といえば、主成分、香り、色である。これまで、

- ① 主成分についてのスキルアップとして、温泉療養指導士。(4名)・・・7期
- ② 香りのスキルアップとして、アロマセラピーアドバイザー。(5名)・・・8期  
と資格取得をしてきた。今年度(9期)は、意欲ある者の中から、
- ③ 色のスキルアップとしてカラーコーディネーター

の資格取得を目指す。